

学生と大学が ともに考える キャンパスの 将来計画

北海道大学大学院工学研究院 建築都市空間デザイン部門 +
北海道大学サステナブルキャンパスマネジメント本部



本学の教職協働によるキャンパスマネジメントの組織体制を活かし、学生と大学がともにキャンパスの将来計画を検討する設計演習プログラムを立案、2018年度より実施しております。本学キャンパスマスタープランではサステナブルキャンパスの構築が謳われています。キャンパスを総合的かつ長期的な視点で考える演習により、サステナブルキャンパス実現への寄与を図ります。本演習を大学院教育におけるインターンシップ関連科目に位置付け、学生の実務能力の養成を図りつつ、本演習の成果を具体的なキャンパス計画に活用する等、教育・運営の双方でメリットを生むように運用しています。

教職協働の組織体制を活かし
学生と教職員でキャンパスの将来を考える

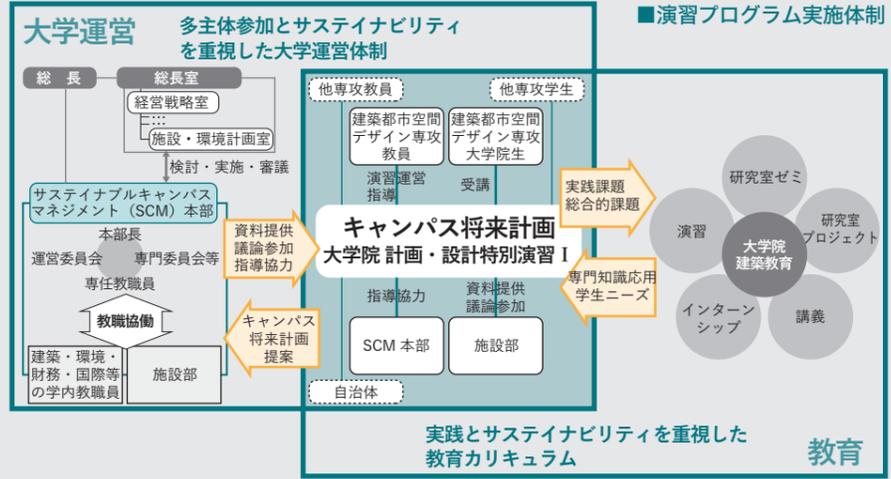
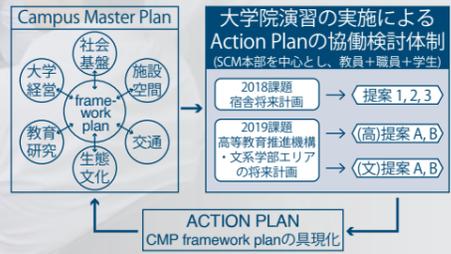
1 概要：新たな教育プログラムの実施 キャンパスを教材とした大学院設計演習

●北海道大学では、サステナブルキャンパスマネジメント本部（SCM本部）を2018年4月に設置、教職協働による組織体制により全学横断的なキャンパスマネジメントを推進しております。

- 教職協働のメリットを最大限活かす取組として、工学研究院をはじめ SCM本部に所属する教員により**学生が教職員とともにキャンパスの将来計画を検討するプログラム**をカリキュラムの中で立案、2018年度より、建築都市空間デザイン部門の大学院生を対象とした「**計画・設計特別演習 I (3単位)**」を実施しております。
- 本学キャンパスを演習の計画対象とし、**学生自身のキャンパスでの生活経験に基づきながら、キャンパスが抱える課題と求められる役割を理解し、キャンパスの将来計画を提案するプログラム**としております。
- 18歳人口の減少および厳しい経済状況の中での老朽化施設の更新、国際化に対応する教育・研究施設の機能向上など、**大学キャンパスが抱える課題は日本の地域社会が直面している問題の相類似であると考えています。**この認識を元に、本演習は、キャンパスの将来計画の検討を通して、今後の成熟社会・日本において**サステナブルな社会を実現する実効性のある計画・設計能力を養う事**を教育上の目的としています。

2 演習実施において重視した事項① キャンパス運営組織との連携体制の構築

- 演習で取り組む設計課題は、老朽化施設の改善や建て替わり状況の解消など、キャンパスが抱える問題の解決を前提とし、**キャンパスマスタープランのアクションプランで検討項目とされたプロジェクトを設定**しました。
- 事務局キャンパス運営組織との連携体制を構築**、施設系以外のデータも収集しつつ、学生と教職員との議論の場を検討プロセスの中で多彩に設け、計画精度の向上を図りました。



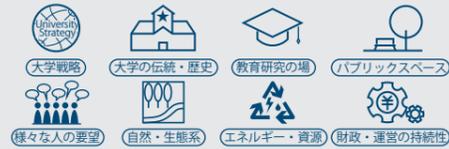
■キャンパス運営組織との連携した演習運用プロセス



3 演習実施において重視した事項② サステナブルキャンパス実現への プログラムとして

- 本学キャンパスマスタープランではサステナブルキャンパスの構築が謳われています。キャンパスを**総合的かつ長期的な視点で考える**視野を育む

キャンパスの多様な要素からサステナビリティを検討



チェックポイントを**インフラ長寿命化計画**のリメイクすることで組み込み、大学のサステナビリティを課題とする教育を通して、**サステナブルキャンパスの実現への寄与**を図ります。

- 演習を今後も毎年実施、**リアルタイムの実状**に即した課題を継続的に計画に取り込む事で、**キャンパス計画を持続的に更新**します。

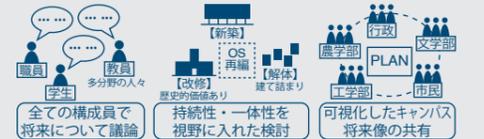
4 大学院教育としてのメリット・効果 より実践的な計画・設計能力の養成

- 建築士法の改正を受け、本演習を**インターンシップ関連科目**として位置付け、大学院教育における実務訓練に相当する内容となりました。

- 発注者やキャンパス利用者（教員・職員・学生・来学者）など**実際の関係者と直接関わる**事で、実務的な協議を経験させる事ができます。
- 運営で実際に扱っているキャンパス関連データを提供。複雑な現状への理解を通して、**実務レベルの計画を立案する能力を養成**します。
- 企画・構想から計画・設計まで、総合的な内容に取り組む**プログラムとし、将来の様々な社会的要請に対応し得る能力を養成します。

5 大学運営へのメリット・効果 利用者関与でキャンパス計画の質を向上

- キャンパスマスタープラン実現の上、重点的な議論が肝要なキャンパスの**基本構想段階の検討**を演習で取り組む事で、**キャンパス計画に本来必要な事項とは何かを探る**ことができます。
- 一時的・個別的な対応となりがちな小規模施設などを含めた**一体的な計画とキャンパス全体を絶えず考える視点の重要性**を再確認できます。
- 学生自身がキャンパス計画に関与する事で、教職員の立場からは見えない**学生のニーズ**をより具体的に抽出、計画に反映できます。
- 図面・模型・パースなど、演習の成果を空間イメージとして提案、基本構想段階での**キャンパスの将来像を視覚的に共有**できます。



6 成果と今後の展望 演習の成果を具体的な運営に活用する

- 演習の成果は**キャンパス運営へフィードバック**、具体的な計画に活用しています。昨年度の**宿舎将来計画の成果は、今年度、大学がコンサルと取り組んでいる企画業務の基礎資料**として扱っています。
- 関連部局・地元行政等**、より多くのステークホルダーと更に踏み込んだ検討を推進します。
- 更なる改善のため、演習による**教育効果の客観的な検証・評価作業の実施**を検討します。

2018年度 留学生宿舎将来計画

スーパーグローバル大学事業構想を推進する 留学生宿舎将来計画を立案

- スーパーグローバル大学事業構想で示される外国人留学生増加目標の達成に向けて、不足する留学生宿舎を計画する課題を実施。
- 計画エリアは、北海道大学札幌キャンパス内で、**国際交流拠点**としての適地、キャンパスの**魅力を享受**できるエリア、老朽化が深刻で建替えが求められるエリア、**事業可能性**があるエリア等、キャンパス敷地の分析から敷地を選定し、敷地に合わせた機能・建築を提案。
- 国内外大学の国際戦略や留学生宿舎事例の調査分析、外国人留学生の生活実態と留学生宿舎の実態調査に基づき、提案を作成。
- 7つの提案を作成し、非常勤講師の**不動産コンサルタント**と意見交換、SCM本部への提案、**総長政策諮問委員会**（宿舎将来計画検討部会）への提案を経て、3つの計画案にまとめ上げた。

敷地	キャンパスの中心に位置し、キャンパス内の課題と共に複合的な整備	キャンパスのフリンジに位置し、学外機能・収益機能との複合化	
企画	A 学内の国際化拠点の構築と福利厚生施設の再配置	B 民間宿泊施設機能との複合	C 豊かな居住環境と生活利便性
共通機能	混住型寮 + 留学生寮		
付随機能	<ul style="list-style-type: none"> 北部食堂、生協 新渡戸カレッジ拠点 レクチャールーム、ラウンジ、教室 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル ワールドカフェ 留学生による運営、調理、簡易なバー 生協会館（購買、書籍、事務） 	<ul style="list-style-type: none"> 一般賃貸住宅 収益機能として見込める、産官学連携 国際交流スペース 留学生との交流イベント開催等
ユニット平面図	4人ユニット	6人ユニット	8人ユニット

2019年度 高等教育推進機構・文系学部エリアの将来計画

インフラ長寿命化計画をベースとした キャンパス一部区域のローリングプランを立案

- インフラ長寿命化計画**（個別施設計画）で示される客観的な施設等データをベースに、キャンパス内の一部エリアの将来計画を**ローリングプランで立案**する課題を実施。
- 計画エリアは、一時的・個別的な増改築により全体的な統制がとれていないエリア、小規模な建物の建て替わりや将来用地が不足しているエリア等、**キャンパス全体からの視点で改善策を検討すべき2つのエリア**を設定。
- 諸室利用状況や動線・共用空間の利用など、**運営側では把握が難しい現状を独自の実態調査により把握**。併せて、学生ヒアリングによる意見聴取を行い、計画に反映。
- 前提条件や優先事項ごとに、各エリアで複数のローリングプラン案を立案。**SCM本部・施設部へ提案・報告**を行った。今後、関連部局・理事等への提案を行う。

